

- 新型コロナウイルス感染症の報告が636例(男性325例(10歳代68例, 20歳代64例, 30歳代34例, 40歳代47例, 50歳代27例, 60歳代29例, 70歳代33例, 80歳代19例, 90歳代3例, 年齢非公開1例), 女性302例(10歳代28例, 20歳代49例, 30歳代31例, 40歳代32例, 50歳代37例, 60歳代26例, 70歳代38例, 80歳代40例, 90歳代17例, 100歳代1例, 年齢非公開3例), 年齢及び性別非公開9例)あり, 本年の累積報告数は2,011例になりました。
 - レジオネラ症(肺炎型)の報告が1例(70歳代女性)ありました。症状は発熱, 咳嗽, 呼吸困難, 肺炎です。感染地域は国内, 感染経路は不明です。本年初めての報告例です。
 - 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告が1例(70歳代男性)あり, 症状はショック, 肝不全, 腎不全等です。感染地域は国内です。本年初めての報告例です。
 - 梅毒の報告が2例(50歳代男性および20歳代女性各1例)ありました。ともに感染地域は国内で, 感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は2例になりました。
梅毒の感染経路はほとんどが性的接触です。不特定多数との性的接触を避け, コンドームの使用などの予防策をとってください。重症化及び感染拡大を防ぐためには早期発見, 早期治療が非常に重要です。
京都市では, 平日及び土日の昼間にHIV・性感染症(梅毒・淋菌・クラミジア)検査を予約制で実施しています。詳細については, 下記のホームページを御覧ください。
○京都市情報館「京都市のHIV検査について」
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000271215.html>
 - 播種性クリプトコックス症の報告が1例(60歳代男性)(第1週追加報告分)ありました。本年初めての報告例です。
 - インフルエンザは, 市内69の定点医療機関からの報告はありませんでした。
京都市のインフルエンザの発生状況は下記のホームページをご参照ください。
○京都市のインフルエンザの発生状況(衛生環境研究所)
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000102856.html>
- ◆ 今週のトピックス: <播種性クリプトコックス症>
2021年第1週, 本市で播種性クリプトコックス症の報告が1例ありました。本感染症は2014年9月に全数把握疾患に指定され, 本市ではこれまでに8例が報告されており, 合計で全9例となりました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類:結核 4例(肺結核 3例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 なし)うち喀痰塗抹陽性 1例)
【1月以降の累積報告数 9例(肺結核 5例, その他結核 3例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 1例】
- 指定感染症:新型コロナウイルス感染症 636例【1月以降の累積報告数 2,011例】
男, 325例(10歳代68例, 20歳代64例, 30歳代34例, 40歳代47例, 50歳代27例, 60歳代29例, 70歳代33例, 80歳代19例, 90歳代3例, 年齢非公開1例)
女, 302例(10歳代28例, 20歳代49例, 30歳代31例, 40歳代32例, 50歳代37例, 60歳代26例, 70歳代38例, 80歳代40例, 90歳代17例, 100歳代1例, 年齢非公開3例)
年齢及び性別非公開, 9例
- 四類:レジオネラ症 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- 五類:劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- 五類:梅毒 2例【1月以降の累積報告数 2例】
- 五類:播種性クリプトコックス症 1例【1月以降の累積報告数 1例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科	① 感染性胃腸炎	2.47	106
(降順5位まで)	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.37	16
	③ 突発性発しん	0.19	8
	④ 水痘	0.12	5
	⑤ 咽頭結膜熱	0.09	4
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

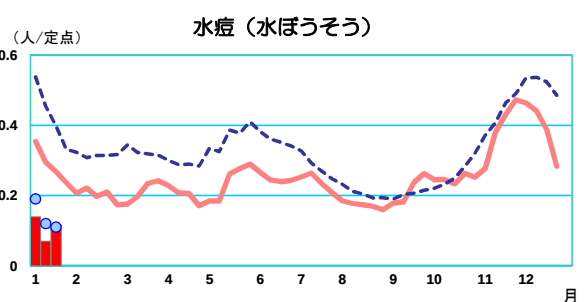
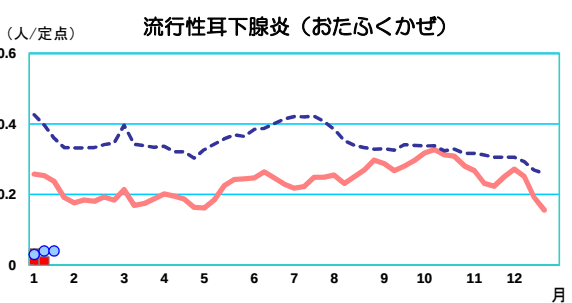
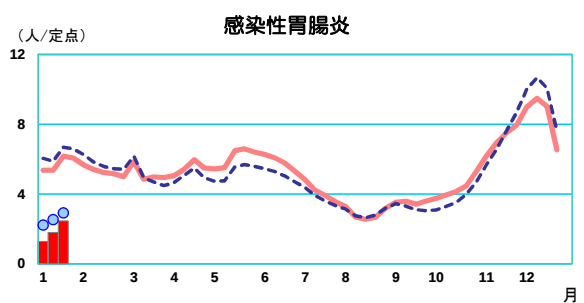
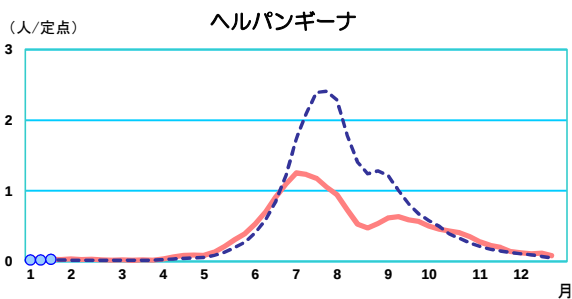
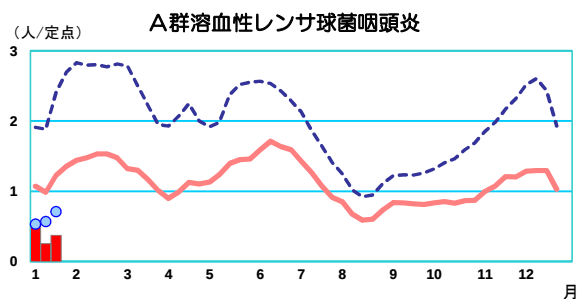
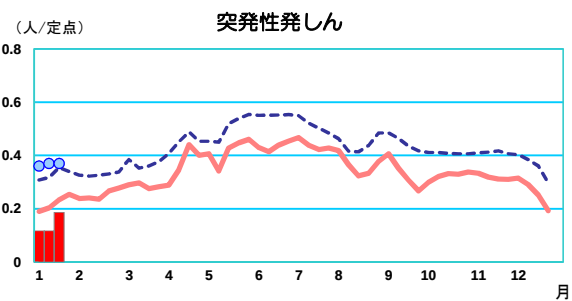
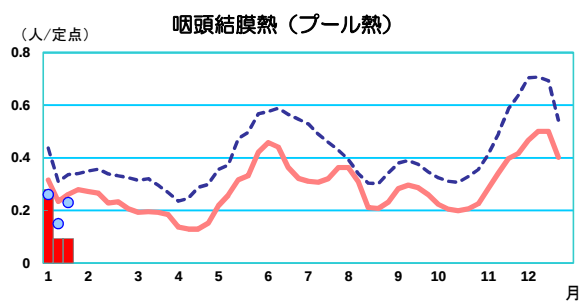
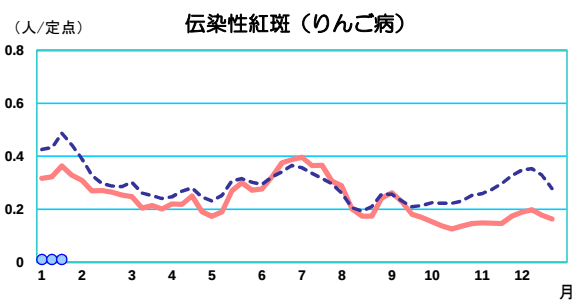
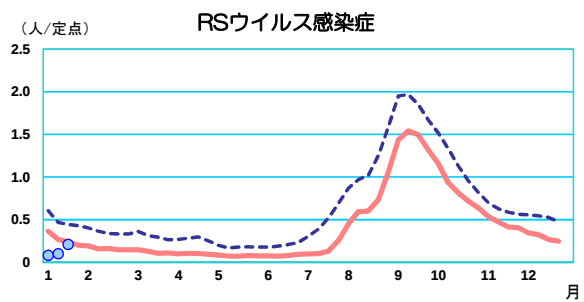
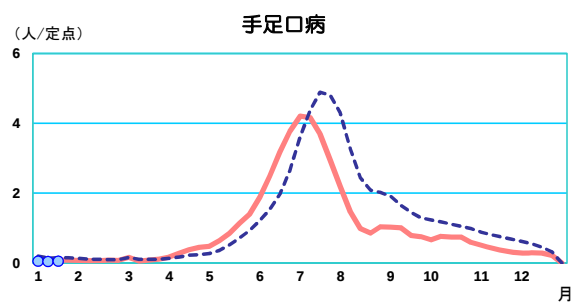
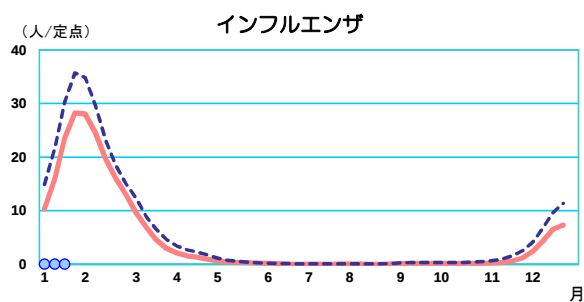
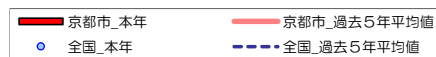
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <播種性クリプトコックス症>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

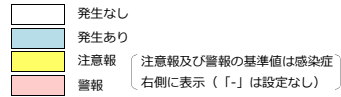
(注) 京都市のデータは, 2021年1月27日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

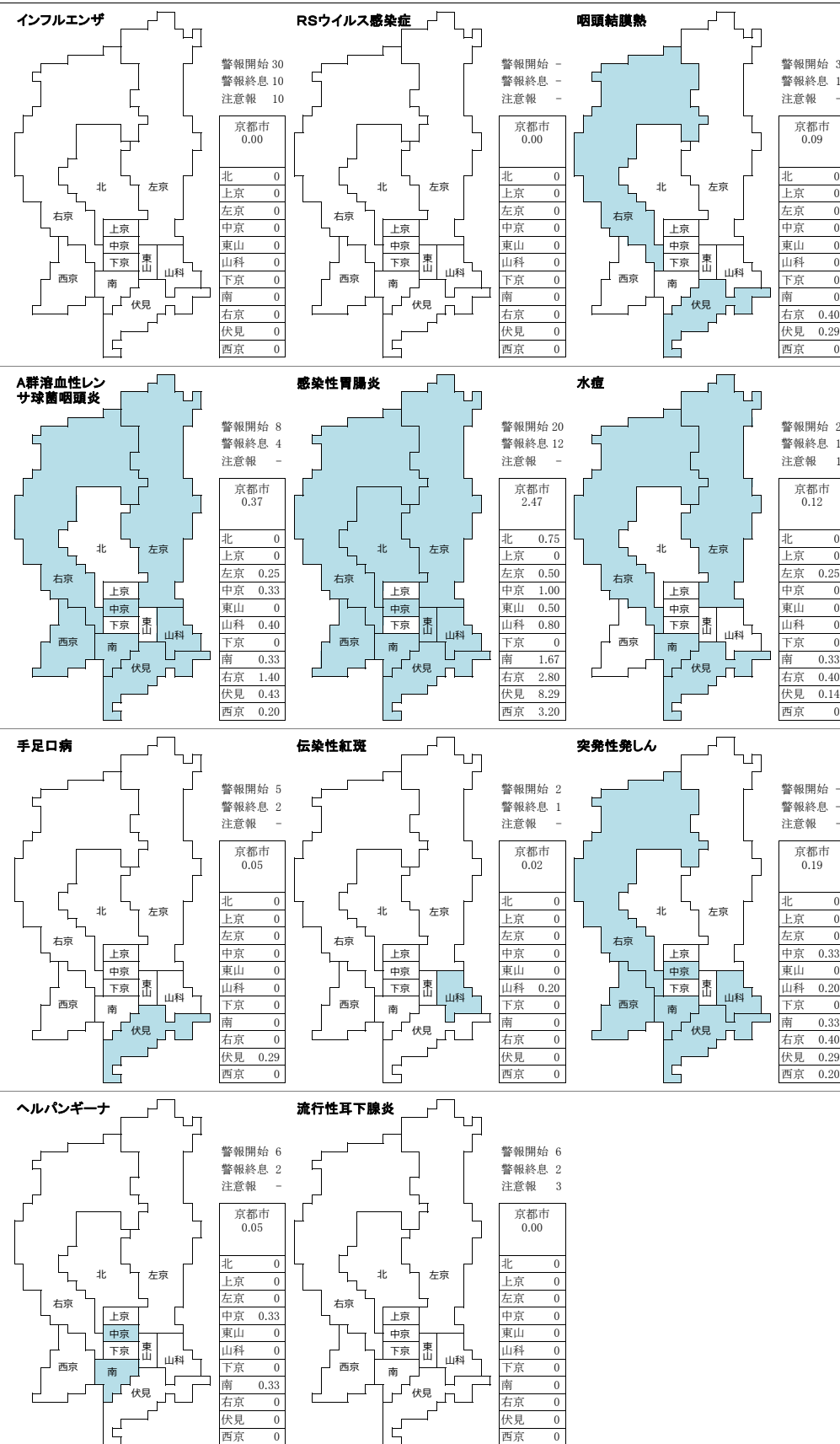
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2021年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2021年 第3週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
したがって、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や
「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



第3週(1月18日～1月24日) トピックス: <播種性クリプトコックス症>

2021年第1週,本市で播種性クリプトコックス症の報告が1例ありました。本感染症は2014年9月に全数把握疾患に指定され,本市ではこれまでに8例が報告されており,合計で全9例となりました(表1)。全国の年間報告数はおおむね120～180例程度で推移しており,男性の方がやや多く報告されています(図1)。

クリプトコックス症の原因はクリプトコックス属真菌です。真菌の細胞は細菌とは全く異なる構造をしていて,どちらかというと動物の細胞に似ています。そのため,治療薬として用いられる抗真菌薬は,細菌に使う抗生剤よりも副作用が強いことが多いです。また,真菌には酵母に似た丸い形をしていて分裂で増えるものと,細く伸びて胞子を作って増える糸状菌(いわゆるカビ)があります。クリプトコックス属真菌はその両方の特徴を持つので,二形性真菌と呼ばれています。

クリプトコックス属真菌は真菌では珍しく,莢膜というゼリー状の物質を作ることが特徴で,墨汁で背景を黒くすることで透明に抜けた莢膜を観察することができます(図2)。健康な人に症状を起こす病原性真菌はいくつか知られていますが,国内で常在しているのはクリプトコックス属真菌のみで,特に*Cryptococcus neoformans*または*C. gattii*がよく知られています。*C. neoformans*が国内報告の大半を占め,*C. gattii*によるものの報告は少ないですが,*C. gattii*の方が致死率が高い可能性が指摘されており,注目されています。

クリプトコックス属真菌は土壌中に普通に生息しており,ハトなどの鳥類のフンの中でも増殖します(鳥類の体内では増殖しません)。これらの真菌を含む土埃やフンが乾燥した塵が皮膚の傷口に付いたり吸いこんだりすることで感染しますが,ヒトからヒトへ感染することはありません。

クリプトコックス属真菌は皮膚に湿疹を起こしたり,肺に肉芽腫(腫瘍ではなく,異物を隔離するための免疫反応)を作って咳を起こしたりしますが,健康な方では無症状で治ることが多いです。しかし,稀に血液から全身に広がることもあり,特に脳や脊髄で増殖して脳髄膜炎を起こします。このとき,病変部は種をまいたように真菌の塊が散らばって見えるので,この状態を播種性クリプトコックス症といいます。脳などに病変ができると,頭痛や嘔吐,意識障害などがみられることもあります。

免疫機能が低下している方では特に危険が大きく,肺炎を伴わずいきなり脳髄膜炎になり,命にかかわることもあります。免疫機能が低下している方は,土埃や鳥類のフンがある場所に近寄らないようにするとともに,マスクを着用しましょう。

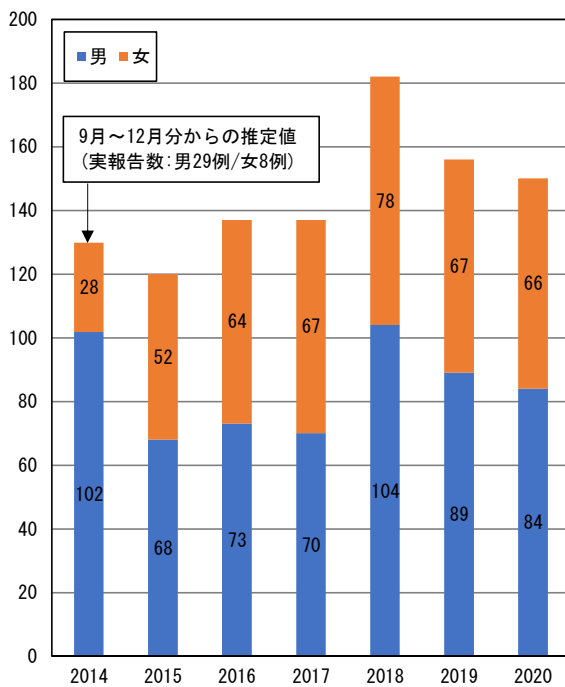


図1. 全国の播種性クリプトコックス症の性別報告数¹⁾

表1. 本市の播種性クリプトコックス症の全報告例

報告年	性別	年齢	感染原因
2015	男	60歳代	免疫不全
2017	男	60歳代	不明
2017	女	20歳代	不明
2018	男	70歳代	ハトの糞
2018	男	80歳代	不明
2019	男	80歳代	免疫不全
2020	女	80歳代	免疫不全
2020	男	70歳代	免疫不全
2021	男	60歳代	免疫不全



図2. *C. neoformans*の墨汁法による直接鏡検像²⁾

本文は以下のウェブサイトを参考に作成した(以下,全て2021年1月27日閲覧)。
 ○国立感染症研究所「クリプトコックス症の概要」(IASR Vol. 36 p. 185-186; 2015年10月号)
 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/yphi-m/iasr-reference/2318-related-articles/related-articles-428/5993-g4281.html>)
 ○東京都感染症情報センター「播種性クリプトコックス症」
 (<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/diseases/cryptococcosis/>)

1) 推定値は9～12月の発生数が年間通してあったと仮定して算出した。
 2) 国立感染症研究所「クリプトコックス症の概要」より引用(URLは左に同じ)。

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第3週

疾病,行政区別報告数

2021年1月18日～2021年1月24日

データ入手日:2021年1月27日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘルパン ギーナ	流行性耳下 腺炎	急性出血性結 膜炎	流行性角結 膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)
男女合計																		
北	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-					
上京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
左京	-	-	-	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-					
中京	-	-	-	1	3	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-							
山科	-	-	-	2	4	-	-	1	1	-	-	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
南	-	-	-	1	5	1	-	-	1	1	-							
右京	-	-	2	7	14	2	-	-	2	-	-	-	2					
伏見	-	-	2	3	58	1	2	-	2	-	-	-	1					
西京	-	-	-	1	16	-	-	-	1	-	-	-	-					
京都市計	-	-	4	16	106	5	2	1	8	2	-	-	3	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘルパン ギーナ	流行性耳下 腺炎	急性出血性結 膜炎	流行性角結 膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)
男女合計																		
北	-	-	-	-	0.75	-	-	-	-	-	-	-	-					
上京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
左京	-	-	-	0.25	0.50	0.25	-	-	-	-	-	-	-					
中京	-	-	-	0.33	1.00	-	-	-	0.33	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-							
山科	-	-	-	0.40	0.80	-	-	0.20	0.20	-	-	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
南	-	-	-	0.33	1.67	0.33	-	-	0.33	0.33	-							
右京	-	-	0.40	1.40	2.80	0.40	-	-	0.40	-	-	-	2.00					
伏見	-	-	0.29	0.43	8.29	0.14	0.29	-	0.29	-	-	-	0.50					
西京	-	-	-	0.20	3.20	-	-	-	0.20	-	-	-	-					
京都市計	-	-	0.09	0.37	2.47	0.12	0.05	0.02	0.19	0.05	-	-	0.30	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第3週

年齢階級, 疾病別報告数

2021年1月18日～2021年1月24日

データ入手日:2021年1月27日

京都市	年齢1 年齢2 年齢3 年齢4	総数 総数 総数 総数	～5ヶ月 ～5ヶ月 ～5ヶ月 0歳	～11ヶ月 ～11ヶ月 ～11ヶ月 1歳-	1歳 1歳 1歳 5歳-	2歳 2歳 2歳 10歳-	3歳 3歳 3歳 15歳-	4歳 4歳 4歳 20歳-	5歳 5歳 5歳 25歳-	6歳 6歳 6歳 30歳-	7歳 7歳 7歳 35歳-	8歳 8歳 8歳 40歳-	9歳 9歳 9歳 45歳-	10歳- 10歳- 10歳- 50歳-	15歳- 15歳- 15歳- 55歳-	20歳- 20歳- 20歳以上 60歳-	30歳- 30歳- 30歳- 65歳-	40歳- 40歳- 40歳- 70歳以上	50歳- 50歳- 50歳- 70歳以上	60歳- 60歳- 60歳- 70歳以上	70歳- 70歳以上 70歳以上	80歳以上
男女合計	年齢1		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
インフルエンザ (※1)	年齢1		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱			4	-	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			16	-	1	-	1	2	5	2	2	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎			106	-	11	16	12	9	7	5	3	4	3	2	16	7	11	-	-	-	-	-
水痘			5	-	-	-	1	1	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病			2	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑			1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん			8	-	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ			2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎			3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	1	-
細菌性髄膜炎 (※2)			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1 年齢2 年齢3 年齢4	総数 総数 総数 総数	～5ヶ月 ～5ヶ月 ～5ヶ月 0歳	～11ヶ月 ～11ヶ月 ～11ヶ月 1歳-	1歳 1歳 1歳 5歳-	2歳 2歳 2歳 10歳-	3歳 3歳 3歳 15歳-	4歳 4歳 4歳 20歳-	5歳 5歳 5歳 25歳-	6歳 6歳 6歳 30歳-	7歳 7歳 7歳 35歳-	8歳 8歳 8歳 40歳-	9歳 9歳 9歳 45歳-	10歳- 10歳- 10歳- 50歳-	15歳- 15歳- 15歳- 55歳-	20歳- 20歳- 20歳以上 60歳-	30歳- 30歳- 30歳- 65歳-	40歳- 40歳- 40歳- 70歳以上	50歳- 50歳- 50歳- 70歳以上	60歳- 60歳- 60歳- 70歳以上	70歳- 70歳以上 70歳以上	80歳以上
男女合計	年齢1		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
インフルエンザ (※1)	年齢1		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱			0.09	-	-	0.07	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			0.37	-	0.02	-	0.02	0.05	0.12	0.05	0.05	-	0.05	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎			2.47	-	0.26	0.37	0.28	0.21	0.16	0.12	0.07	0.09	0.07	0.05	0.37	0.16	0.26	-	-	-	-	-
水痘			0.12	-	-	-	0.02	0.02	-	-	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病			0.05	-	-	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑			0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん			0.19	-	0.02	0.16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ			0.05	-	-	-	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎			0.30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	0.10	-	-	-	0.10	-
細菌性髄膜炎 (※2)			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第3週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2021年1月27日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	-	-	1	1	-	-
RSウイルス感染症	-	-	1	-	-	-
咽頭結膜熱	15	8	1	12	4	4
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	35	20	14	23	11	16
感染性胃腸炎	71	79	30	55	77	106
水痘	6	7	2	6	3	5
手足口病	3	1	-	-	1	2
伝染性紅斑	1	1	-	-	-	1
突発性発しん	10	10	6	5	5	8
ヘルパンギーナ	4	4	1	1	2	2
流行性耳下腺炎	1	1	-	2	1	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	2	-	2	1	3
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合 計	146	133	56	107	105	147

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	-	-	0.01	0.01	-	-
RSウイルス感染症	-	-	0.02	-	-	-
咽頭結膜熱	0.35	0.19	0.02	0.28	0.09	0.09
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.81	0.47	0.33	0.53	0.26	0.37
感染性胃腸炎	1.65	1.84	0.70	1.28	1.79	2.47
水痘	0.14	0.16	0.05	0.14	0.07	0.12
手足口病	0.07	0.02	-	-	0.02	0.05
伝染性紅斑	0.02	0.02	-	-	-	0.02
突発性発しん	0.23	0.23	0.14	0.12	0.12	0.19
ヘルパンギーナ	0.09	0.09	0.02	0.02	0.05	0.05
流行性耳下腺炎	0.02	0.02	-	0.05	0.02	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	0.20	-	0.20	0.10	0.30
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合 計	3.40	3.25	1.29	2.63	2.52	3.65

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。